

路地空間および路地空間周辺部における地域コミュニティ形成に関わる物理的要素の実態調査

—新潟市中央区曲師屋小路を対象として—

建築・都市アメニティグループ

B10C023 佐藤 直樹

路地空間
表出

地域コミュニティ
幅員

あふれ出し
路地形態

1. はじめに

近代の都市計画では、モータリゼーションに対応した機能や効率化を優先した都市の整備が行われてきた。そのため、道幅が広幅員となり地域の空間、景観、コミュニティが分断されてしまった。そのため、現在ではモータリゼーションによる都市空間の過度な変化への反省からヒューマンスケールの都市デザインへの再評価が進んでいる。そこで新たな都市デザインを考える上で、ヒューマンスケールな路地空間でのコミュニティ⁽¹⁾を作り出す要素について考えることは重要である。

以上のことから、本研修では地域コミュニティを対象に物理的要素がコミュニケーションを誘発しているか明らかにし、路地内に住まう人々のコミュニティの意識に影響を与える空間構成要素について知見を得ることを目的とする。

2. 研修の枠組み

2-1. 用語の定義

本研修で扱う物理的要素を植栽や自転車などの「私的物品（以下あふれ出し・表出）」、「幅員」、「路地形態」とする。なお、本研修では、①公道に置かれた私的物品をあふれ出し、②私有地に置かれていてかつ外部から見知が可能な私的物品を表出、として明確に区別する（図1・図2参照）。

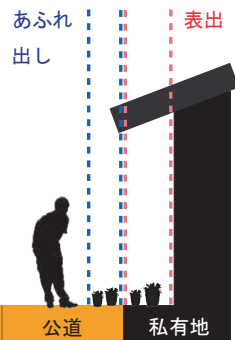


図1 あふれ出しと表出の定義

2-2. 研修の対象

研修の対象は、「東北・北陸地方で調査が可能であること」、「路地マップを作成し紹介が積極的に行われていること」から新潟市を選定し、「マップで紹介されており、袋小路などコミュニケーションの場と成り得る空間が存在すること」より曲師屋小路上大川通り側（以下曲師屋小路^(2,3)）を選定する。さらに、聞き取りアンケート調査の対象として、曲師屋小路にある建物23戸のうち、住宅として使用されていてかつ承諾が得られた10戸を聞き取りアンケート調査の対象とする。なお、曲師屋小路は現状の幅員が狭いため、車の通行が不可能な路地である。



図2 あふれ出しと表出の例

2-3. 研修の方法

本研修では、対象地において現地の実態調査・観察調査を行いかつ路地沿いに住む住民を対象に聞き取りアンケート調査を行い、これらの調査を通じて、①物理的要素の実態、②物理的要素に対する住民評価、③コミュニティに対する住民評価、④コミュニティの範囲とコミュニケーションの頻度の4点を把握する。

3. 評価対象の実態と評価の結果

対象の10戸の物理的要素の実態を以下に示す（表1・図3）。また平野他¹⁾を参考に、路地内のコミュニティに対する評価の各要素に点数を与え（表2）、これをコミュニティ評価の指数とし、数量的に各住民のコミュニティの評価の違いを比較した（図4）。

表1 物理的要素の実態

物理的要素	私的物品【植物以外】		私的物品【植物】		幅員 [mm]	路地形態
	あふれ出し [個数]	あふれ出し [個数]	表出 [個数]	表出 [個数]		
家屋番号						
①	0	0(0)	1(100)		4,280	袋小路
②	0	0(0)	9(100)		4,280	袋小路
③	0	8(50.0)	8(50.0)		4,280	袋小路
④	7(自転車、ホース等)	12(63.2)	7(36.8)		3,700	通り抜け小路
⑤	1(ホース)	16(36.2)	27(62.8)		2,500	通り抜け小路
⑥	0	2(25.0)	6(75.0)		3,300	通り抜け小路
⑦	0	2(14.3)	12(85.7)		2,700	通り抜け小路
⑧	0	7(43.8)	9(56.2)		2,200	通り抜け小路
⑨	2(三輪車、自転車)	1(25.0)	3(75.0)		2,500	通り抜け小路
⑩	1(自転車)	0	0		3,700	通り抜け小路
平均					3,344	
合計	11	48(36.9)	82(63.1)			

・①内の数字は植物の総数に対するあふれ出し、表出のそれぞれの割合(%)
 ・黄色の網掛け部分は、表出の割合が過半数であることを示す
 ・袋小路 住宅の入口が路地内の袋小路に接している住宅のことを示す
 ・通り抜け小路 住宅の入口が路地内の通り抜け小路に接している住宅のことを示す
 ※通り抜け小路とは、対象路地内において、人の通過交通が可能な通り抜け部分と定義する

表2 コミュニティ評価の指数得点表

		アンケート回答項目	点数
路地内のコミュニティに対する評価	作業	掃除 留守番の依頼、引き受け お年寄りの手伝い 子どもを預ける、預かる その他	1点
		満足度	満足 2点 やや満足 1点 どちらでもない 0点 やや不満 -1点 不満 -2点
	居住意向	長く住み続けたい 当面は住み続けたい できれば住み続けたくない 住み続けたくない	2点 1点 -1点 -2点
		定住意向理由 移住意向理由	近所づきあいが良好だから 3点 近所づきあいが煩わしいから -3点



図3 路地内実態図

路地内のコミュニティに対する評価は、平均値と比べると2極化が見られた(図4)。しかし、路地内外のコミュニティの満足度を比較すると路地内では10人中8人が満足と回答しており不満と回答した人はなかった(図5)。以上のことから、本研修では何らかの路地特有の物理的要素がコミュニティに寄与していると想定し、要因を3つの物理的要素との関連から分析・考察を行う。

4. 物理的要素とコミュニティの関連

4-1. 私的物品によるコミュニティへの影響

4-1-1. あふれ出し・表出によるコミュニティへの影響

(1) 植物

植木やプランター等の植物の手入れ中に、近所の人との接触があると全員が回答していた(図6)。また、手入れ以外の場合でも同様の結果が得られた。これより、植物はコミュニティの誘発に対して正の影響があると考えられる。

(2) 植物以外の私的物品

植物と植物以外のあふれ出しに対する評価を比較すると、植物に対しては全員が寛容な意見であるのに対し、植物以外に対しては4人が邪魔と感じていた(図7)。植物については、植物が路地に潤いをもたらしていると10人中7人が回答していることから(図8)、寛容な意見であったと考えられる。

一方、植物以外についてはあふれ出しが少数ではあるが、邪魔な物と認識されていることがわかる。よって植物以外のあふれ出しは、少数でも、負の影響があると考えられる。

4-1-2. あふれ出し・表出と通過交通の相互関係

対象路地では、私的物品(植物・植物以外)のあふれ出しは少数であり、おおむね私有地内に私的物品は収められていた。また、観察調査から、路地外の人々の通過交通が頻繁であることが確認できた。

以上のことから、路地内に住む住民が路地内を通過する人々に配慮し、また私的物品を保護しようとした結果、あふれ出しの割合が低くなったと予想される。

4-2. 幅員によるコミュニティへの影響

幅員に対するコミュニティの観点からの評価は10人中7人が「ちょうど良い」と回答した。これに対して防災の観点からの評価は10人中5人が「狭い」と回答していた(図9)。防災上の問題を含んでいるが、「安心して外で立ち話ができる」という意見が得られたことから、車が進入できない幅員がコミュニティに正の影響を与えていると考えられる。

4-3. 路地形態によるコミュニティへの影響

通り抜け可能な路地沿いに住む住民が、袋小路沿いに住む住民より、対象路地内に話し相手の人数が多いことがわかった(表3)。対象選定時の想定では、人が溜まりやすい袋小路でコミュニティが発生し易いとしていた。しかし実際は、それと異なっていた。通り抜け小路の方が住民同士接触する機会が多くなり、路地で何らかの接触があった際に、お互いを認識し合うようになり、これがコミュニティのきっかけになっていると考えられる。

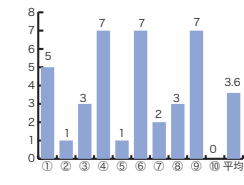


図4 コミュニティ評価得点の比較

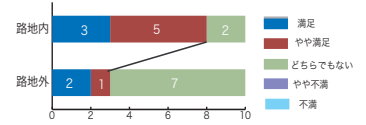


図5 路地内外での満足度の比較

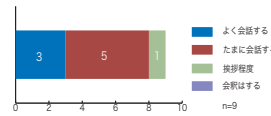


図6 手入れ時の会話頻度

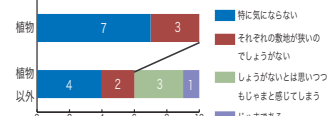


図7 あふれ出しに対する評価の比較

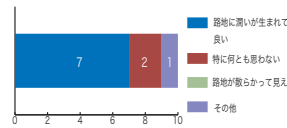


図8 植物に対する評価

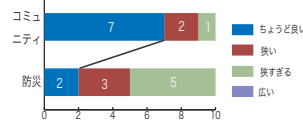


図9 幅員に対する評価の比較

	路地内の話し相手の人数		路地内の話し相手の平均人数
	通り抜け小路【人】	袋小路【人】	
袋小路	1	1	2
①	1	1	2
②	3	3	6
③	1	1	2
④	4	1	5
⑤	1	0	1
⑥	6	2	8
⑦	4	0	4
⑧	5	2	7
⑨	6	2	8
⑩	6	1	7
合計	37	13	50

・小路別の話し相手の人数の平均は、各住民の話し相手の合計を小路ごとに足して、それぞれの人数で割った値のことを示す

5. まとめと後期の課題

本研修から、路地空間において物理的要素もコミュニケーションを誘発する一因となり、コミュニティに正の影響を与えることが明らかになった。中でも特に、①植物が存在することが会話のきっかけとなるため、正の影響を与えていた。また、公道に私的物品があふれ出していたとしても、植物の場合はおおむね寛容であった。②対象路地の狭い幅員が、車の進入を不可能にしているため、安全に普段のコミュニティを行える空間となっていた。つまり、一定幅員が狭いことも正の影響を及ぼしていた。③袋小路よりも通り抜け小路の方が、住民同士の接触機会が多かった。よって、地域住民の往来の多い路地形態の方が、植物の手入れ等の際に人と会う機会も増えることから、コミュニティの形成に寄与していた。

以上の3点を考察することができた。後期では、他の路地と比較を行う事で、上記3点の物理的要素のコミュニティの意識に対する影響について知見を深めていく。

【補注】

- ① 本研修でのコミュニティの言葉の定義は、共同体とすると共に、そのコミュニティ内で行われるコミュニケーション、近所づきあいも定義に含めることとする。
- ② 路地コミュニティは路地沿いに住む人々のコミュニティ、地域コミュニティは路地コミュニティを含む4つの町会のコミュニティを地域コミュニティとする。
- ③ 曲師屋小路：上大川通2番町・3番町、本町通2番町・3番町の4つの町会に属している。

【引用・参考文献】

- ① 平野遼介・有賀隆：狭隘路地沿道の居住者コミュニティの解明に関する研究；日本建築学会学術論文叢刊集（北陸）2010年9月、pp277-278
- ② 西村幸夫：路地からのまちづくり
- ③ 新潟市：新潟の町 小路めぐり <新潟市中央区本町通界隈編>